

⑦新東名高速道路 伊勢原大山IC～新秦野ICの開通

受賞機関 中日本高速道路株式会社 東京支社 厚木工事事務所
中日本高速道路株式会社 東京支社 秦野工事事務所

キーワード 新東名高速道路、新たな技術の導入、
トンネル覆工への投影、アーチ型排煙設備

全建賞審査委員会の評価ポイント

新東名高速道路(伊勢原大山IC～新秦野IC間約13km)の建設。
トンネル工事におけるICT技術の積極的な活用や調整池の合理化などによるコスト縮減及び工期短縮が評価された。

1. はじめに

新東名高速道路は、神奈川県海老名市を起点に、愛知県豊田市に至る全長約253kmの高速自動車国道で、当該路線は伊勢湾岸自動車道・新名神高速道路と一体となって東京・名古屋・大阪の三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として日本経済をけん引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす重要な路線である。

新東名高速道路のうち、伊勢原大山IC～新秦野IC間の約13kmが、令和4年4月16日に開通した。

2. 事業の概要

当該事業は、新東名高速道路 伊勢原大山IC～新秦野IC間の約13kmを新設する事業で、当該区間は、丹沢山地の山裾を通過するため、トンネルが全体延長の約6割とトンネル比率が高い区間となっている。

当該区間における完成時(6車線)の道路規格は、第1種第1級、設計速度120km/hであるが、整備計画において、暫定的に4車線(第1種第2級)に変更となり、4車線で整備を進め、令和4年4月16日15時に開通した。

また、国土交通省関東地方整備局で建設を進めた国道246号秦野IC関連事業、秦野市と建設を進めた秦野丹沢スマートICも同日に開通した。



位置図

3. 事業の成果

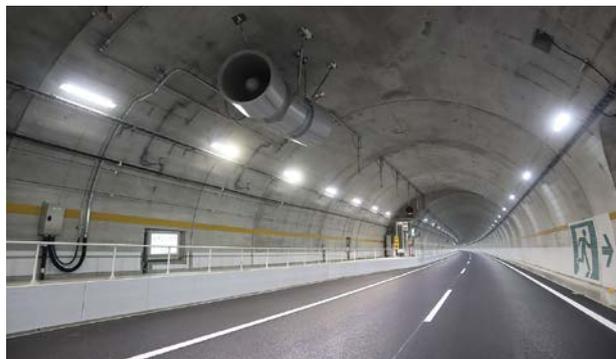
本事業の完成により、都心近郊から開通区間沿線市町への来訪客が増加、都心とのアクセス性向上による物流効率化が図られた。

当該区間は、トンネル延長が長いことから、トンネル

内の設備で新たな技術の導入として、トンネル内で事故などが発生した際に停止などの行動を利用者へ励行する目的として延長2km以上の長いトンネルの各非常駐車帯にトンネル覆工への投影装置の試行を行った(①)。平常時は出口までの距離などを表示している。トンネル内における排煙設備(ジェットファン)を車線上空から非常駐車帯に設置するために、排煙設備の形状をアーチ型に変更した(②)。これにより、走行時の圧迫感を低減し点検時の車線規制回数の削減や通行止の回避が可能となった。



①トンネル内の投影状況



②アーチ型排煙設備の設置状況

4. おわりに

地域にお住まいの皆様や関係機関の皆様のご協力をいただきながら、伊勢原大山IC～新秦野ICを無事開通することができた。

新東名高速道路 新秦野IC～新御殿場IC間約25kmの建設事業に当たっては、安全を最優先に地域住民の皆様をはじめ、ご理解とご協力を得ながら事業推進に鋭意取り組んでいく。

賛助会員 エム・エムブリッジ(株)、(株)大林組、鹿島建設(株)、川田工業(株)、(株)鴻池組、(株)駒井ハルテック、清水建設(株)、(株)竹中土木、(株)ピーエス三菱、宮地エンジニアリング(株)